



令和2年度  
地域まちづくり活動助成金  
活動成果概要



令和3年3月

東大阪市 市民生活部  
地域活動支援室



## 目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要 .....	1
各交付事業の成果一覧 .....	2
活動成果概要 .....	3-16

## 『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。

### ○選考方法

スタート支援部門	書類と面接
事業チャレンジ部門	書類と公開プレゼンテーション

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

### ○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などの協働性

## 令和2年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

令和2年度は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏名	選出団体及び役職
会長	吉田 忠彦	近畿大学 経営学部 教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学 総合社会学部 准教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	太田 裕	東大阪市 市民生活部 地域活動支援室長

## 各交付事業の成果一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ 番号
1	スタート 支援部門	石切のわ	石切地域活性化事業	3
2	スタート 支援部門	NPO法人リード	放課後ラグビー教室	5
3	スタート 支援部門	災害時のトイレ・避難所問題等を考える会	誰ひとり取り残さない地域防災事業	7
4	スタート 支援部門	特定非営利活動法人多言語・多文化サポートICHI	多言語・多文化サポート「おうちでにほんご」	9
5	スタート 支援部門	まちなこ東大阪の会	のらねこなくし隊！！地域猫のすすめ、誰でもできるTNRと保護	11
6	スタート 支援部門	まなびや通りフェスタ実行委員会	まなびや通りフェスタ	13
7	スタート 支援部門	Rond健康運動プロジェクト	東大阪てくてくラダー教室	15

令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	石切地域活性化事業		
団体名	石切のわ		
助成区分	スタート部門	助成金額	200,000 円

事業の目的・内容	目的	石切地域（石切劔箭神社、石切参道商店街を含む）を対象に、地域住民、商店街振興組合及び近畿大学の学生との連携によるワークショップや体制づくりを通じて、若い世代の担い手発掘や地域住民との交流の場を創出することで、地域コミュニティの活性化を図ることを目的とする。
	内容	地域の課題解決を図る体制づくりを行う為に、現状の課題を見える化し地域主体で実施可能な施策の立案を行う。HP や SNS を活用した活動発信を行い、地域住民と地域の商店や学生を絡めたコミュニティの輪を広げる仕組みとなる WS やイベントを実施する。

活動実績	<p>本事業では3回のオンラインワークショップ（以下、OWS）と3回の現地ワークショップ（以下、現地WS ※コロナ禍に伴い実施日程を変更）を実施した。</p> <p>OWS では講師にファシリテーターの浅井氏を呼び、ZOOM と MIRO を使用した意見交換会を、各回を3セットに分けて合計9セット実施した。参加者は各回平均12名で、合計36名が参加した。</p> <p>第1回現地WSとして、8月8日に近畿大学の学生と地域住民を対象に地元商店街のテイクアウト食品を集める「石切ごはん」を石切参道商店街つけもの横丁で実施した。（新メンバーに向けたまちあるきに合わせて実施）学生と地域住民合計32名が参加した。第2回現地WSとして、9月25日に地元商店街の店主の方々と学生による意見交換会を東石切会館で実施した。4テーブル合計22名が参加した。</p> <p>第3回現地WSは石切勉強会として12月23日に実施。先進事例の勉強会を行い、感想や質問を出し合い、整理する事で現状の活動に対する悩みや考えを共有した。合計9名が参加した。</p>
------	--

目 標	<申請時> オンラインWS 合計 30名 現地WS 合計 40名	<事業実施後> オンラインWS 合計 36名 現地WS 合計 63名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	OWS と現地 WS を重ねることで、地域住民にとっては日常である要素は学生（若者）にとって非日常的な要素であるということが可視化された。それにより、意見交換会の中ではその要素を活用した企画提案が複数提案された。またそのうちの1つである「ギネス挑戦（別添使用参照）」については、地元商店街の既存イベントの中で学生と地域の共同ブースによる折り紙教室に発展した。	
今 後 の 事 業 展 開	来年度は地域全体へ向けての情報発信やWSへの参加募集に合わせて、活動力のある地域住民に対して個別アプローチを行い、体制づくりに注力することで課題解決を図る取り組みを具体化し実行に移す。その為には、SNS・HP等での活動PRや、地域や地元商店街との交流（イベント・挨拶回り等含む）を強化する必要がある。また、収益のある取り組みについても実施し、事業経費を捻出する仕組みをつくり、事業が継続的に実施できるサイクルを目指す	

\*活動内容がわかる写真を添付してください。



（写真左上から右に①オンラインワークショップの風景②石切ごはんが集まったテイクアウト商品③現地意見交換会④意見交換解発表⑤石切勉強会⑥折り紙教室）

## 令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	放課後ラグビー教室		
団体名	NPO法人リード		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	200,000円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	<p>私たちは、子ども達に対して、ラグビーの新しい環境を提供しようと考えました。新しい環境とは、「ラグビースクール生が平日もラグビーができる環境」です。多くの日本のラグビースクールは保護者などがボランティアで協力し、指導に当たっています。そのため原則的に週末での活動が中心になっているのが、現状です。このことから、平日もラグビーができる機会を増やすことで、ラグビーの普及・強化に繋がりたいと考えました。また、ラグビー以外のスポーツに週末通っている子ども達が平日にラグビーに触れることもいい機会だと考えています。ジュニア期において、多種類のスポーツを経験することは運動神経の発達に効果的だと言われており、この環境を作ることで、子ども達の成長に繋がると考えました。</p>
	内容	<p>放課後ラグビー教室は、小学1年生から中学3年生を対象とし、毎週火・水曜日の放課後に東大阪市立八戸ノ里東小学校・小阪小学校で開催しているラグビー教室です。</p>

活動 実績	<p>新型コロナウイルスの影響により、6月から事業を開始し、当初は3名の生徒数で活動しておりました。しかし、2021年度2月になり、60名を超える生徒数にまで増加しました。</p>
----------	--



<b>目 標</b>	<b>&lt;申請時&gt;</b> 生徒数 100名	<b>&lt;事業実施後&gt;</b> 生徒数 64名
<b>事業の成果・効果</b>	<p>生徒の中には、ラグビー未経験者の生徒もいて、今ではラグビーの楽しさや魅力を感じて「毎週の楽しみの一つ」として参加してくれています。またラグビー経験者の生徒も元プロの選手だったコーチなどからラグビーを学ぶことで、体力の向上と技術面での向上につながっています。</p> <p>東大阪市内の子ども達だけでなく、他市からの参加者も多く、子ども達のラグビーを通じた仲間作りにも繋がっています。</p> <p>「ラグビーのまちである東大市」で、子ども達が仲間と楽しくラグビーをする機会があることで、ラグビーの普及・強化又子ども達が心身共に成長にも繋がっていると考えております。</p> <p>また、活動場所として利用させて頂いている東大阪市内立八戸ノ里東小学校で、ラグビー体験授業を実施する機会がありました。「ラグビーのまち東大阪」とはいえ、ラグビーを経験できる機会が限られているのが現状の中、多くの子ども達にラグビーを経験してもらえたことで、ラグビーの魅力や楽しさを伝えられました。</p>	
<b>今後の事業展開</b>	<p>今年度は、新型コロナウイルスの影響により、幼稚園や保育園でラグビー体験授業を実施することができませんでした。今後は小・中学生だけでなく、幼児にもラグビーを体験する機会を作り、ラグビーの魅力を伝えることができたかと考えております。ラグビーという一つのスポーツをする子ども達が増加し、ラグビーの普及・強化又子ども達が心身共に成長することに繋がればと考えております。</p>	

\* 活動内容がわかる写真を添付してください。



令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	誰ひとり取り残さない地域防災事業		
団体名	災害時のトイレ・避難所問題等を考える会		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	100,000 円

事業の目的・内容	目的	「新型コロナ禍」に於いて、感染を予防し、「三密」にならないような災害時の避難や避難所のあり方、運営等について改めて学び認識する必要がある。また、高齢者や障害者など避難行動要支援者（名簿登録数）は約2万人ともいわれているが、災害時、何時・誰が支援に来て・どこに避難するか等、それぞれに適した個別の避難支援計画づくりがなされていない。こうした現状と課題を地域や関係者と認識し共有化することを目的とする。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三密を避け感染予防に配慮した避難や避難所のあり方を学ぶ。</li> <li>・東日本大震災から10年「災害時、誰ひとり取り残さない地域防災」講演会を開催。啓発を行い、問題意識の共有化を図る。</li> <li>・分散避難や在宅避難の課題、個別避難計画づくり、福祉と防災と地域との連携などについて学ぶ。</li> </ul>

活動実績	<p>①感染予防対策を踏まえた避難所の開設や運営等について自主防災組織の役員等と意見交換を行う。学習会や避難訓練等については見送り。</p> <p>②大阪大学杉田ゼミで、「災害時のトイレ問題と対応」について講演。</p> <p>③3月9日講演会「災害時、誰ひとり取り残さない地域防災」 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究員 河田 滋人氏 イコーラム研修室 会場視聴 名+Zoom参加 名</p>
------	--

目標	申請時：アフターコロナを乗り越える避難所の在り方と誰も取り残さない地域防災の仕組みづくりを考える。	事業後：コロナ禍における分散避難や避難所の開設・運営等については一定の知識を得た。個別支援計画づくりは課題が明らかになった。
事業の成果・効果	<p>① 新型コロナ禍における避難（分散避難）や感染予防に配慮した避難所運営等について学ぶことができた。在宅避難の判断や条件など課題も多いことがわかった。災害時は電気や水道等がストップすることが多く、やはりトイレ問題は必須の課題であることがわかった。②「避難行動要支援者」の個別避難計画づくりが求められている現状と課題等を認識し、福祉介護等の専門職と地域（自治会・自主防災組織）との交流や連携が重要であることを理解した。③災害時にできる限り早く事業を再開・継続するためのBCP（事業継続計画）づくりが必要であることも認識した。新型コロナ禍、東日本大震災から10年、災害時への備えや課題が多く見えてきた。</p>	

今後の事業展開

1. 避難行動要支援者の個別避難計画づくりについて、居宅介護支援事業所や相談支援事業との協力を得ながら、モデル事例として何件か行う。その為に介護福祉関係の専門職を対象とした勉強会を開催する。
2. 介護福祉関係の施設や事業所に対して、何件かモデル事例として実際にBCP（事業継続計画）づくりを行う。
3. 感染予防対策に配慮した避難所の開設や運営など模擬訓練を行う。
4. 災害時のトイレ対応（簡易トイレ・携帯トイレ）実演会を行う。

東日本大震災から10年…新型コロナ渦における災害時の避難を考える

# 災害時、誰ひとり取り残さない地域防災

～福祉と防災と地域の連携 個別避難計画づくりをどうする？～

2020年度 東大阪市地域まちづくり活動助成金事業

2021（令和3）年  
3/9（火）

19:00 開始 受付開始 18:30  
終了予定 20:30

東大阪市立市男女共同参画センター

（希来里6F）研修室1・2

【会場での視聴 定員24名】

近鉄奈良線「若江岩田駅」北スグ

東大阪市岩田町4-3-22 TEL 072-960-9201

参加  
無料

Zoom 参加できます

※下記申込みに必ずメールアドレスを記入のこと。

★招待用ID・パスワード・講師資料を送信



講師プロフィール

- ・大阪教育大学教育学部卒
- ・京都大学防災研究所 巨大災害研究センターアシスタント
- ・人と防災未来センター研究員 専門分野：防災教育、早期避難、地域防災など

講演 19:05 開始(60分) + 質疑応答(25分)

「新型コロナ禍」の中、災害時の避難や避難所問題など、諸課題を提起します。

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

研究員 河田 滋人 さん

今、新型コロナウイルス感染症リスクを踏まえた避難所の開設や運営が求められています。在宅避難も選択肢です。事前にどこに避難するか、誰が支援できるか、災害時にとるべき避難行動を平時に考え、確認しましょう。

主催 災害時のトイレ・避難所問題等を考える会

〒578-0924 東大阪市吉田2-1-38 コミュニティカフェ・ひだまり内

代表 前田 正道（防災士・介護支援専門員・社会福祉士・防災トイレアドバイザー）

TEL 090-7348-4750 Fax 072-961-5275 m-maeda@leo.zaq.jp

## 「新型コロナ」で避難や避難所はどうなるのか

『新しい生活様式』を踏まえた避難所の開設や運営とは？感染予防、衛生管理、備品の再確認、定員の見直しなど、避難所が『密にならない』対策の検討が必要です。また、分散避難や在宅避難についての課題も考えます。

## 「避難行動要支援者」等の個別避難計画は？

東大阪市は、高齢者・障害者など災害時「避難行動要支援者」の登録数は約2万人。総務省は2021年度から個別避難計画の策定を促す為、自治体に財政支援をします。兵庫県や別府市は既に施策を実行。東大阪市も検討か？

## 介護・福祉事業所はBCP(事業継続計画)策定を

厚労省は、介護・福祉施設や事業所に対して災害時等事業継続計画(BCP)の策定を義務化(3年間経過措置)。避難訓練等に於いても地域と連携した実施を求めています。どういう視点で取り組むのか、課題等を提起します。

## 平時にこそ、有事を想定した話し合いや準備を

居住のハザードマップ、避難所への経路や施設の状況、どこに避難するのが適切か、在宅避難の判断や条件は、災害時は誰が支援できるのか、避難所からの情報や救援物資等は届くのか、普段から課題を考え、備えましょう。

講演会（災害時、誰ひとり取り残さない地域防災）参加申込書

2021年 月 日

参加の形態 会場での視聴（定員24名：抽選） Zoomオンライン参加（招待メール送信の為、メールアドレス必記※）

参加者名

所属

職種

住所 〒

TEL

※E-mail

参加申込の締切りは 3月2日(火)まで FAX 072-961-5275 又は E-mail: m-maeda@leo.zaq.jp へ

## 令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	多文化・多言語サポート「おうちでにほんご」		
団体名	特定非営利活動法人 多言語・多文化サポート I C H I		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	<p>東大阪市に住む外国籍住民の方々には生活に必要な支援が十分行き届いていないという問題点に着目し、いつでもどんな場所でも生活に必要な日本語を学ぶリソースを提供し、学習する機会を設けるとともに支援体制を定着させる。</p> <p>また、外国籍住民に関わる人材を増やし地域とのネットワークを構築する事によって相互理解を深め、より良いまちづくりにつなげることを目的とする。</p>
	内容	<p>地域に暮らす日本語学習が必要な住民を対象とし、生活に必要な日本語を学ぶリソースを開発する。</p> <p>体験学習会の開催や SNS 等での発信、印刷物の配布を通じて随時提供していき、日本語の習得に役立てていただく。</p>

活動 実績	日本語学習リソース、クイズレットを使った「おうちでにほんご」の作成体験版の完成後、リソース及び団体の広報活動（市内 180 カ所の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・夜間中学校へ配布）		
	体験学習会の開催		
	第 1 回	2020 年 9 月 13 日（日）	15:00～16:30 東大阪みらい日本語学校
	テーマ	外国人パパ&ママのための日本語教室 子どもの病気について	
参加者	外国籍住民 7 名、学生ボランティア 3 名、スタッフ 6 名		
第 2 回	2020 年 9 月 19 日（土）	10:00～11:30 東大阪みらい日本語学校	
テーマ	外国人パパ&ママのための日本語教室 子どもの病気について		
参加者	外国籍住民 4 名、学生ボランティア 3 名、スタッフ 7 名		
第 3 回	2021 年 3 月 14 日（日）	13:30～16:00 東大阪市文化創造館（予定）	
テーマ	第 1 部	東大阪市の地名・駅名、生活情報	
	第 2 部	小学校の日本語	

<b>目 標</b>	<b>&lt;申請時&gt;</b> 東大阪市の駅名や幼稚園保育所で使用することばを含めた生活に必要な日本語を学ぶリソースを開発し、出来上がったリソースを随時提供していく。	<b>&lt;事業実施後&gt;</b> 「おうちでにほんご」の作成。体験学習会の開催や SNS での発信、印刷物の配布等で提供し学習の機会を提供する。学んだ日本語を用いて地域社会とのつながりを作る。
<b>事業の成果</b>	リソースの開発において多言語での翻訳ができたことは意義があった。また成果物が今後に残るため、必要なときに必要な人が使える。 体験会の開催で参加者同士のつながり、相談の場にもなった。〈具体的例〉同じ地域に暮らす日本の家庭の母親と外国人家族が出会う場ともなった。体験会では講師として地域の大学生も活動し、学びの場となった。 市内の保育所、幼稚園・88 園と小学校・中学校・高等学校・夜間中学校 92 校への案内ができ、市内全域に広く知ってもらえる機会となったため、幼稚園・保育所の保育者だけでなく、学校の教員にも知ってもらえることができた。このアプリを利用した日本語学習者が、地域で活発に活動するためのきっかけ作りに貢献できた。	
<b>今後の事業展開</b>	教員や保育者がこのアプリを用いて現場で有効に活用する使用法についての体験会は、コロナ禍で行えなかった。今後、対面することが容易にできるようになれば、そのような機会も設けてみたい。 今回の事業で配布した内容に興味を持ってもらい、例えば小学校入学前の説明会に利用してもらえるように働きかけていきたい。 ここで学んだ日本語を用いて、地域におけるコミュニティに参加し地域の一員として活動できる、関係づくりに活かすための活動を行ってみたい。	

\*活動内容がわかる写真を添付してください。



## 令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ノラ猫なくし隊！！地域猫のすすめ、誰でもできる TNR と保護		
団体名	まちねこ東大阪の会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	135,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	ノラ猫による排泄・マーキング・発情期の泣き声などによる近隣住民間でのトラブルや、不妊手術を行わずに産まれた子猫を遺棄して保健所に持ち込まれ殺処分対象になる、この現状を何とかできないかと、この活動を始めました。 不妊手術の徹底と方法の啓発を解決方法としています。
	内容	飼い主のいない猫（ノラ猫）を不妊手術をして元の場所に戻す（TNR）活動を推進しています。今はボランティア主体のこの活動を地域コミュニティで出来るように、ノラ猫なくし隊のジャンパ着用などの方法にて啓発活動も行っています。

活動 実績	<p>①御厨東まちねこ東大阪の会の本部にて完全予約制の保護猫のお見合い会を開催。</p> <p>6/7（来場者 14 組）、6/14（来場者 12 組）、6/28（来場者 17 組）          7/12（来場者 11 組）、7/26（来場者 10 組）、8/9（来場者 6 組）          8/23（来場者 15 組）、9/13（来場者 5 組）、10/4（来場者 8 組）          10/11（来場者 8 組）、11/1（来場者 10 組）、11/15（来場者 8 組）          12/13（来場者 7 組）、1/17（来場者 10 組）、2/21（来場者 7 組）          2/23（来場者 8 組）</p> <p>②啓発グッズ作成</p> <p>8/10 ポロシャツ作成          11/13 ベスト、腕章作成          1/20 クリアファイル作成</p>
----------	---

<b>目 標</b>	<b>&lt; 申請時 &gt;</b> 誰でもできる TNR と保護猫活動。	<b>&lt; 事業実施後 &gt;</b> TNR も保護猫活動も、ある程度は普及できたと思います。
<b>事業の成果・効果</b>	ノラ猫を捕獲して手術なんて私にはできないと思っておられた方にも捕獲器の貸し出しや使い方の説明などで、ご自身の手で TNR に関わってもらえたと思います。保護猫活動についても、こちらに保護の依頼があった方とお話をして、方法などを伝えることによってご自身でされる方も増えてきました。	
<b>今後の事業展開</b>	今後はスパイククリニック（不妊手術専門病院）の開院により、よりたくさんの猫の不妊手術を行うことによって、ノラ猫問題の解決を図っていきたいと思います。	

\*活動内容がわかる写真を添付してください。



## 令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	まなびや通りフェスタ		
団体名	まなびや通りフェスタ実行委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	100,000 円

事業の目的・内容	目的	本事業は、昨年度のイベントの開催によって見えた地域の課題解決のため、若い世代の人が、長瀬のまちに興味を持ち、長瀬のまちに魅力を感じ、愛着を持ってもらう機会作りを行うことを目的とする。
	内容	今年度は長瀬のまちに関わる商店主、学生、子育てママ、地域住民、近大関係者等の参加を募り、『長瀬オンライン座談会』を開催し配信する。また、『長瀬活性化プロジェクトアンケート』を作成、そして、今年度事業総括『長瀬活性化プロジェクトアンケート』結果を作成し、SNS等にアップする。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4/1・8・15・22・29・5/27・6/4 計7回《今年度のイベント企画》実行委員会全体会議</li> <li>② 4/3・10・16・23・5/13・21 計6回《企画案まとめ》実行委員幹事会</li> <li>③ 8/7 実行委員会全体会議《今年度イベント開催に向けての役割分担》</li> <li>④ 8/19・9/2 計2回 『長瀬活性化プロジェクトアンケート』原案をアンケート作成講師と打合せ</li> <li>⑤ 9/10～9/18 『長瀬活性化プロジェクトアンケート』を実施</li> <li>⑥ 8/16 アンケート回答状況確認、広報打合せ</li> <li>⑦ 9/30・10/7・28 《アンケート結果を踏まえて長瀬オンライン座談会の内容打合せ》実行委員幹事会、実行委員会全体会議</li> <li>⑧ 10/14 《まちづくり講師近大建築学部鈴木教授とオンライン座談会打合せ》</li> <li>⑨ 11/4・16 《長瀬オンライン座談会出演者打合せ》</li> <li>⑩ 11/11 《長瀬オンライン座談会リハーサル》</li> <li>⑪ 11/22 《長瀬オンライン座談会開催、YouTube ライブ配信》</li> <li>⑫ 2/11・2/19 《今年度総括アンケート結果まとめ SNS で発表》打合せ</li> </ul>
------	--



<b>目 標</b>	<p>&lt;申請時&gt;</p> <p>若い世代、特に 20 代～40 代の女性を対象としたイベント開催をすることで、まちに興味、愛着を生み、若い世代が住みたいまちにしていける。</p>	<p>&lt;事業実施後&gt;</p> <p>若い世代のまちへの愛着を生むために行なった『長瀬活性化プロジェクトアンケート』の結果より見えてきたのは、長瀬地域に必要なものは様々な立場を超えた繋がりが必要と感じた。多様性を尊重し、地域連帯になることが長瀬地域を盛り上げる第 1 歩と捉え、『長瀬オンライン座談会』を開催し、討議し他結果、立場を超えたコミュニケーションが取れ、次への繋がりが出来た。</p>
<b>事業の成果・効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの課題を明確にするために行なった『長瀬活性化プロジェクトアンケート』の結果により、当初のまちの課題解決策と考えていたことの修正が出来、よりシンプルに課題について、取り組めるようになった。</li> <li>・『長瀬オンライン座談会』を開催したことで、商店主、学生、子育てママ、地域住民、近大広報部の方等それぞれの立場の方たち、そしてまちづくり講師に近大建築学部鈴木教授に来て頂き、《繋がり》をテーマに話せたことで、例えば近大広報部が学校を含めた長瀬のまちの魅力を発信しても、地域住民、商店主、子育てママには届いていなかったりということが分かったり、今後はまちの情報の共有についてもそれぞれの立場で見直して、横の繋がりを大きくしていきたいという話になった。</li> <li>・『長瀬オンライン座談会』を YouTube ライブ配信したこと、近大建築学部あきばこ家代表西村さん(まなフェス実行委員)を中心に長瀬のまちの 3D 動画、イベント当日の記録を文字とイラストを使ってわかりやすく見える化し、まちの方々とも共有でき、開催記録も出来た。</li> <li>・その他、まちの活性化に興味を持つ商大 3 回生の学生さんもまなフェスの取組に興味を持たれ、実行員会に参入された。</li> </ul>	
<b>今後の事業展開</b>	<p>まなフェス実行員会自体、長瀬のまちの縮図のように多様な立場の集まりですので、地域連帯となるように、情報の共有、他団体や個人との協働を進めて、長瀬地域の発展となるイベントを開催していく。</p> <p>具体的には、長瀬のまちの 3D 動画を活用して、地域を巻き込んで活性化させていく。</p>	



11/22 座談会風景



長瀬オンライン座談会



今後の事業展開打合せ

令和2年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪てくてくラダー教室		
団体名	Rond健康運動プロジェクト		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000 円

事業の目的・内容	目的	知的・発達障がいのある成人を主対象として運動不足解消・転倒予防を目的とした健活コミュニティを育むと共に、障がい者本人とその家族、更に地域の人々の参加も促し、合理的配慮のあるコミュニティを醸成する。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの有無にかかわらず楽しめる効果的な運動レクリエーション教室を開催。</li> <li>教室の参加者を増やし、小さな運動コミュニティを形成。そこに地域の方々（健常者）を取り込むことで既存コミュニティと障がい者の接点を作る。</li> <li>この活動をリードするインフルエンサーを育む。</li> </ul>

活動実績	①てくてくラダー教室					
		活動日	時間	会場	メンバー	体験者
	1	2020/6/7	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	10	0
	2	2020/7/5	10:00-11:30	東大阪市文化創造会館	8	0
	3	2020/8/2	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	8	0
	4	2020/9/6	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	6	0
	5	2020/10/4	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	8	0
	6	2020/11/3	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	8	0
	7	2020/12/6	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	10	0
	8	2021/1/11	10:00-11:30	東大阪市長市民多目的センター	10	2
9	2021/2/7	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	10	0	
10	2021/3/7	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	12	0	
	合計			90	2	
②特別プログラム（対象：てくてくラダー教室のメンバー及びその家族）						
	内容	活動日	時間	会場	参加者数	
1	秋のハイクアッププログラム	2020/11/26	10:30-12:00	生駒ヶ原「宝山寺駅」～ラッキーガーデン	6	
2	テイクアウト体験会	2021/1/24	10:00-11:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	14	
③研修会（対象：スタッフ・ボランティア）						
	活動日	時間	会場	参加者		
1	2020/11/3	13:15-14:45	大阪市淀川スポーツセンター	3		
2	2021/1/24	13:00-16:30	東大阪市リジョンセンターくすのきプラザ	4		

目標	< 申請時 > 期間末の登録メンバー数：20名 （前年度対比：200%）	< 事業実施後 > 期間末の登録メンバー数：12名 （前年対比：120%）
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次の緊急事態宣言解除後から通常クラスを再開。以後、月1回のペースで通常クラスの開催を継続。この間に感染対策の徹底を図ったことで12月からの外出自粛及び第2次緊急事態宣言下においても引き続き活動を続けることができた。登録メンバー数は最終的に微増にとどまったが、退会者はゼロ。月に1度の通常クラスの平均出席率は9割に及んだ。参加者に安心して参加してもらえる運動の場を確保できた。</li> <li>・運動ツール一式を自前で確保、ハード面の基盤を整えることができた。</li> <li>・コロナ禍という時世を踏まえ、積極的なアピール活動は控えるに至ったが、その中においても新たな支援者や協力者を得ることができ、次年度の活動の可能性が広がった。</li> <li>・SNS（Facebook・Twitter等）で情報を発信した結果、市内・市外を問わず問い合わせが増えた。</li> </ul>	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の教室を維持しつつ、小規模の教室を新規展開。またこれに資するコーディネーターを発掘・養成。</li> <li>・今年度は控えていたPR活動を再開、団体及び活動の認知度向上を図る</li> <li>・他の団体・機関とのコラボレーションの可能性を探る。</li> </ul>	

\* 活動内容がわかる写真を添付してください。



**東大阪市役所 市民生活部 地域活動支援室**  
**T E L . 06-4309-3161 F A X . 06-4309-3812**  
Email : [machi-joseikin@city.higashiosaka.lg.jp](mailto:machi-joseikin@city.higashiosaka.lg.jp)